

第八十三回「本郷ふじやま公園古民家歴史部会」「古都鎌倉」歴史探訪

「Ⅷ」12月5日（木）散在ヶ池・称名寺・白山神社

（集合場所；JR大船駅南改札口9時50分厳守同時出発）

- ① 行程；大船駅バス移動→今泉不動→散在ヶ池→称名寺→白山神社→地藏堂（バス停地藏堂前）→大船駅。
- ② 食事場所；大船駅前商店街、魚屋さんの経営する昔懐かしい食堂「観音食堂」・TEL；0467-45-1848。

1・散在ヶ池森林公園（サザイ＝開墾地^{サザイ}が散在していた意、農業用水湖だった）・鎌倉湖（観光用の呼び名）・自然の地形を生かした森林公園・林、湿地、池、草原、鳥類、昆虫類・せせらぎ小路、馬の背小路、パノラマ小道・春桜・WC)

2・称名寺・今泉不動（浄土宗芝増上寺末・今泉山一心院・本尊阿弥陀如来両脇に観音、勢至菩薩、不動明王・寺宝当曼荼羅・陰陽二条の滝）

弘仁9年（810）空海の創建と言う。元は円宗寺と言う寺で、弘法大師が開いたと伝わる不動堂の別当を兼ねていた。後、江戸時代に直誉蓮入が本堂を再建している。鼻地藏（六地藏）・大日如来と36童子。

3・白山神社（今泉鎮守・祭神菊理^{ツク}刈^キ姫之命・例祭9月18日以降日曜・神事芸能鎌倉神楽、神輿渡御・神徳縁結び、勝運、福寿増長・社宝木造毘沙門天立像県文、木造毘沙門天立像及び両脇侍立像市文、等・大注連材^{オシ}祭1月8日・庚申塔・社入口天広丸^{アマノヒロマル}狂歌碑自然石広丸自筆）

建久2年（1191）源頼朝が創建と伝う。京都へ上洛の際、鞍馬寺からもらい受けたと言う毘沙門天立像も納められている。本殿前には、大百足（^{オホヒヤク}・毘沙門天の使い）をあらわした大しめ縄がかけられ、此処に住む守護神と伝う。元は毘沙門堂と言われた。

○天広丸（1756 宝暦 6～）；江戸中期狂歌師、本名磯崎廣吉、別号酔亀亭、今泉生まれ。江戸で唐衣橘洲に狂歌を学び、活躍の一方、井田亀学に易学学んだ易者でもあった。著書（狂歌千歳の松の葉）享和元年（狂歌都鳥集）文化 11 年「狂歌三百首」。「くむ酒は是風流の眼なり月を見るにも花を見る身も」廣丸。

○唐衣橘洲（カゴノキツユウ・1743 寛保 3～1802 享和 2）；江戸後期狂歌師。幕臣。小島氏。号酔竹園。江戸の人。四方赤良（ヨシノカ）・朱楽菅江（アケラノコ）とともに狂歌中興の祖。作風温雅・軽快で、天明調の先駆。著「明和十五番狂歌合」「狂歌和歌集」等。

4・地蔵堂（金仙地蔵尊慈現菩薩）

昭和 40 年日本開発会社によりこの地を開発されし際、現在の地蔵尊前バス停階段付近に埋没されておられる地蔵尊を発見直ちに今泉山称名寺に仮安置し奉り造成完了後昭和 41 年 4 月 14 日この地に遍座されたものである。今泉山を昔金仙山と称されたことから称名寺住職成実一雄師により金仙山尊慈現菩薩と尊称されたもので大慈誓願力により総ての災禍を除き庶民に福利を授け以て善根を成就せしむる靈験あらたかな菩薩であらせられる。北鎌倉地蔵講。 以上